

女川原子力発電所 環境放射能調査結果(案)

令和5年度第1四半期

目 次

1	環境モニタリングの概要	1
(1)	調査実施期間	1
(2)	調査担当機関	1
(3)	調査項目	1
2	環境モニタリングの結果	3
(1)	原子力発電所からの予期しない放出の監視	3
イ	モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による 空間ガンマ線量率	3
ロ	海水(放水)中の全ガンマ線計数率	3
(2)	周辺環境の保全の確認	13
イ	電離箱検出器による空間ガンマ線量率	13
ロ	放射性物質の降下量	13
ハ	環境試料の放射性核種濃度	13
資 料		
1	調査地点	27
2	測定方法及び測定機器等	31
(1)	測定方法及び測定機器	31
(2)	モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率の評価方法	35
(3)	検出下限値及び数値の表し方	36
3	測定結果	37
(1)	モニタリングステーションにおける空間ガンマ線量率測定結果	37
(2)	海水(放水)中の全ガンマ線計数率測定結果	70
(3)	空間ガンマ線積算線量測定結果	73
(4)	移動観測車による空間ガンマ線量率測定結果	75
(5)	環境試料の核種分析結果	77
イ	ゲルマニウム半導体検出器による分析結果	77
ロ	Sr(ストロンチウム)-90の分析結果	84
ハ	H-3(トリチウム)の分析結果	84
4	女川原子力発電所の運転状況	85
(1)	1号機の廃止措置の状況	85
(2)	2号機の運転状況	85
(3)	3号機の運転状況	86
(4)	放射性廃棄物の管理状況	87
(5)	モニタリングポスト測定結果	88

1 環境モニタリングの概要

女川原子力発電所環境放射能測定基本計画及び同実施計画に基づき、令和5年度第1四半期に実施した環境モニタリングの概要は、以下のとおりである。

(1) 調査実施期間

令和5年4月から令和5年6月まで

(2) 調査担当機関

	調査担当機関
宮城県	環境放射線監視センター
東北電力(株)	女川原子力発電所

(3) 調査項目

東北電力(株)女川原子力発電所から周辺地域への予期しない放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所に設置したモニタリングステーションで空間ガンマ線量率を、また同発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターで海水(放水)中の全ガンマ線計数率を、それぞれ連続で測定した。

また、周辺地域における放射性降下物の状況のほか、人工放射性核種の放射能濃度の推移を把握し、同発電所の運転に伴う環境への放射能の影響の有無を評価するため、各種環境試料について核種分析を行った。

なお、評価にあたっては、原則として原子力発電所から周辺環境へ放出されるおそれのある核種のうち女川原子力発電所環境放射能測定基本計画における環境放射能評価方法において規定する人工放射性核種(以下「対象核種」という。)を対象として行う。

表-1に令和5年度第1四半期の調査実績を示す。

表一 1 令和5年度第1四半期の調査実績*1

調 査 対 象	検出器及び試料名			宮城県		東北電力		合 計	
				地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数	地点数	測定頻度 または 試料数
空 間 ガンマ 線	線 量 率	モニタリン グステーション(MS)	Na I	7	連続	4	連続	11	連続
			電離箱	7	連続	4	連続	11	連続
		広域 MS	電離箱	10	連続	/	/	10	連続
		移動観測車	Na I	24	1回	17	1回	41	各1回
		積算線量	RPLD*2	19	1回	13	1回	32	各1回
海水(放水)中の全ガン マ線計数率			Na I	/	/	3	連続	3	連続
降 下 物			月 間	2	6	2	6	4	12
			四半期間	3	3	2	2	5	5
環 境 放 射 能	陸 上 試 料	農 産 物		/	/	/	/	/	/
		陸 水		/	/	1	1	1	1
		陸 土		2	2	/	/	2	2
		浮遊じん		2	6	4	8	6	14
		指標植物		/	/	3	3	3	3
	海 洋 試 料	魚 介 類		2	2	1	1	3	3
		海 藻		2	2	1	2	3	4
		海水(共沈法)		2	2	2	2	4	4
		海水(迅速法)*3		(1)	1	(1)	2	(2)	3
		海 底 土		2	2	2	2	4	4
指標海産物(灰化法)		4	4	3	3	7	7		
指標海産物(迅速法)*3		(3)	3	(3)	3	(6)	6		
降下物及び環境試料数合計				21	33	21	35	42	68

*1 対照地点を含む。

*2 RPLDは蛍光ガラス線量計のことをいう。

*3 共沈法または灰化法に合わせて実施している場合の地点数はカッコ書きとし、合計に含めない。

2 環境モニタリングの結果

本期間中の環境モニタリングの結果、周辺11か所に設置したモニタリングステーションの空間ガンマ線量率及び発電所放水口付近3か所に設置した放水口モニターの海水（放水）中の全ガンマ線計数率において、異常な値は観測されなかった。

降下物及び環境試料からは、対象核種のうちCs（セシウム）-137、Sr（ストロンチウム）-90及びH-3（トリチウム）が検出されたが、他の対象核種については検出されなかった（対照地点を除く）。

以上の環境モニタリングの結果並びに女川原子力発電所の運転状況及び放射性廃棄物の管理状況から判断して、女川原子力発電所に起因する環境への影響は認められず、検出された人工放射性核種は東京電力㈱福島第一原子力発電所事故（以下「福島第一原発事故」という。）と過去の核実験の影響と考えられた。

（1）原子力発電所からの予期しない放出の監視

イ モニタリングステーションにおけるNaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率

原子力発電所からの予期せぬ放射性物質の放出を監視するため、周辺11か所のモニタリングステーションで、NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率を連続で測定した。その結果を図-2-1から図-2-11に示す。

現在推移している線量率には、福島第一原発事故により地表面等に沈着した人工放射性核種の影響が認められる。また、一時的な線量率の上昇が観測されているが、これは主に降水による天然放射性核種の降下の影響と考えられたほか、鮫浦局で特に顕著に見られる5月以降の非降水時の緩やかな線量率の上昇は、周辺土壤中の水分量減少によるものと考えられ、女川原子力発電所に起因する異常な線量率の上昇は認められなかった。

ロ 海水（放水）中の全ガンマ線計数率

放水口付近の3か所の放水口モニターで海水（放水）中の全ガンマ線計数率を連続で測定した。その結果を図-2-12から図-2-15に示す。

海水（放水）中の全ガンマ線計数率の変動は、降水及び海象条件他の要因による天然放射性核種の濃度の変動によるものであり、女川原子力発電所に起因する異常な計数率の上昇は認められなかった。

表一 2 空間ガンマ線量率及び海水中全ガンマ線計数率の評価結果

(NaI(Tl)検出器による指標線量率、空間ガンマ線量率及び海水(放水)中の全ガンマ線計数率 ※1)

(1) モニタリングステーション

調査機関	局名	指標線量率					スペクトルに異常がみられたデータ数(個) ※2					発電所起因 ※3					空間ガンマ線量率								
		設定値 (nGy/h)	超過数(個)				割合(%)	4月	5月	6月	合計	4月	5月	6月	合計	4月	5月	6月	合計	設定値 (nGy/h)	超過数(個)				割合(%)
			4月	5月	6月	合計															4月	5月	6月	合計	
宮城県	女川	2.7	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36.7	95	136	138	369	2.83
	飯子浜	3.3	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49.3	117	162	125	404	3.10
	小屋取	3.8	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55.8	119	140	82	341	2.62
	寄磯	3.5	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42.7	52	164	102	318	2.44
	鮫浦	3.7	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57.8	90	157	123	370	2.84
	谷川	3.9	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55.9	106	140	129	375	2.88
	荻浜	4.0	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61.8	105	166	166	437	3.35
東北電力	塚浜	3.3	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56.6	111	163	120	394	3.01
	寺間	3.2	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47.2	45	135	97	277	2.11	
	江島	2.6	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39.8	118	192	109	419	3.20	
	前網	4.0	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61.8	93	125	89	307	2.34	

※1 今期の全データ数は、欠測がないものとして13104個/局である。
 ※2 指標線量率が設定値を超過し、空間ガンマ線スペクトルに人工核種のピーク等の異常がみられたデータの個数である。
 ※3 発電所起因の有無については、発電所運転状況、気象及び指標線量率等を用いて評価している。
 ※4 調査レベルは前年度の平均値に標準偏差の3倍を加えて算出した数値である。

(2) 放水口モニター

調査機関	局名	海水(放水)中全ガンマ線計数率					発電所起因 ※7								
		設定値 (cpm)	超過数(個) ※6				割合(%)	4月	5月	6月	合計	4月	5月	6月	合計
			4月	5月	6月	合計									
東北電力	1号機放水口モニター(A)	351	※8 1931	54	75	2060	15.80	0	0	0	0	0	0	0	
	1号機放水口モニター(B)	331	※8 1938	13	70	2021	15.50	0	0	0	0	0	0		
	2号機放水口モニター	450	0	0	0	0	0.00	0	0	0	0	0	0		
	3号機放水口モニター	496	2	0	1	3	0.02	0	0	0	0	0	0		

※5 調査レベルは前2カ年度の平均値に標準偏差の3倍を加えて算出した数値である。
 ※6 1号機放水口モニターは、2号機及び3号機放水口モニターとは測定環境が異なるため、海象条件他の要因による天然核種の影響により計数率が上昇しやすく、超過数(個)が多くなる傾向がある。
 ※7 発電所起因の有無については、発電所運転状況及び気象等を用いて評価している。
 ※8 令和5年4月1日～4月14日の期間、海水系ポンプを停止していたため、検出器付近の天然放射性核種を多く含む淡水の割合が大きくなり、調査レベル超過数が増加した。

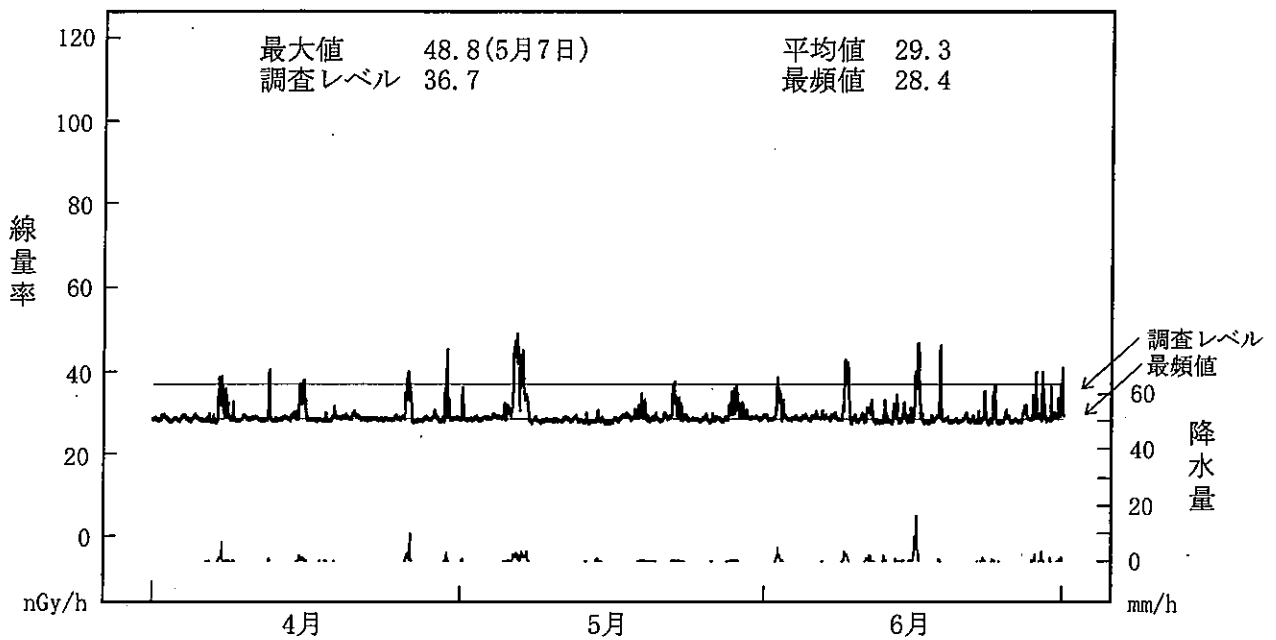


図-2-1 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(女川局)

(注) 6月6日及び7日の欠測は定期点検によるものである。

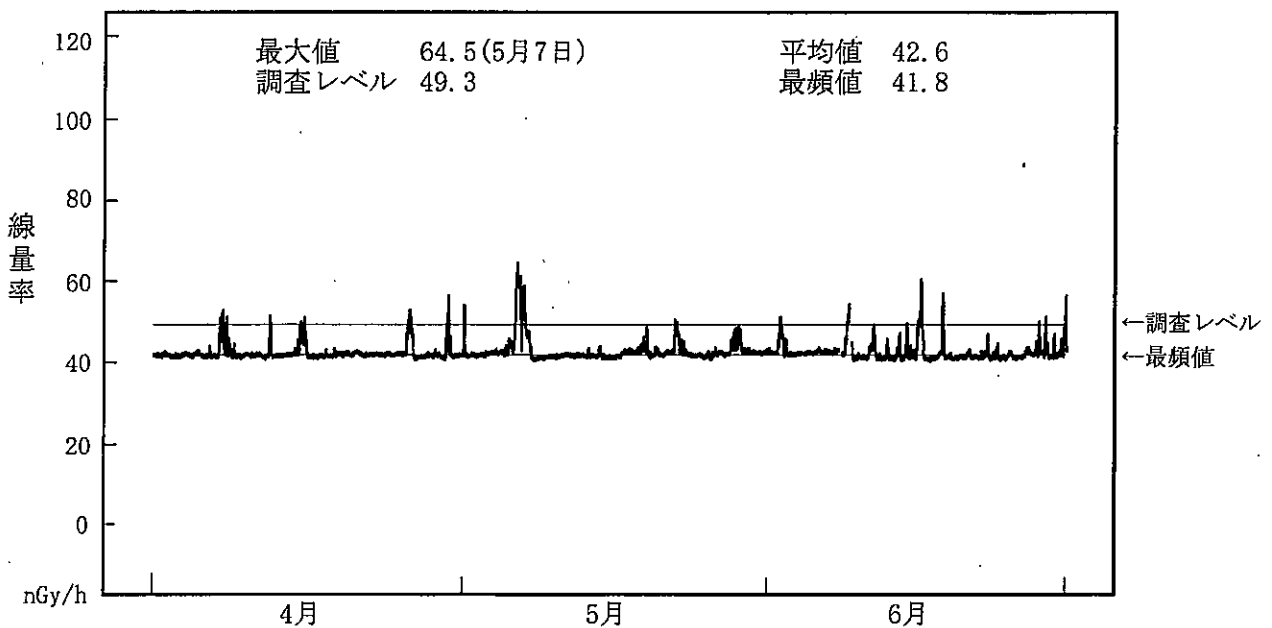


図-2-2 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(飯子浜局)

(注) 6月8日及び9日の欠測は定期点検によるものである。

令和5年度

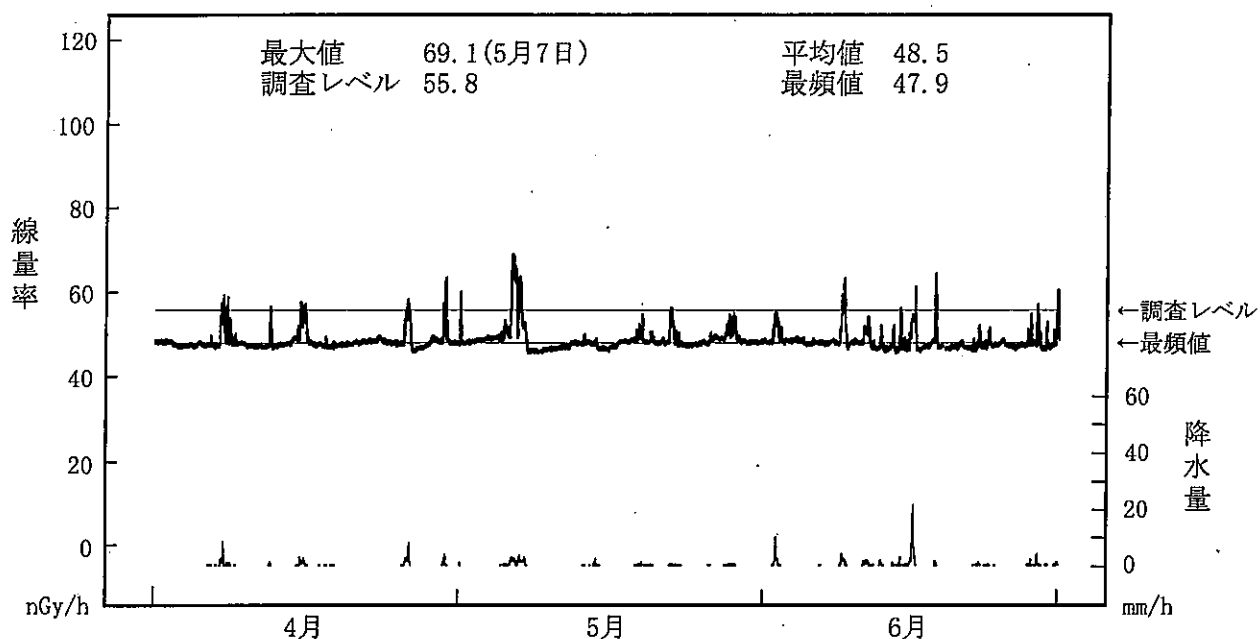


図-2-3 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果 (小屋取局)

(注) 6月16日及び19日の欠測は定期点検によるものである。

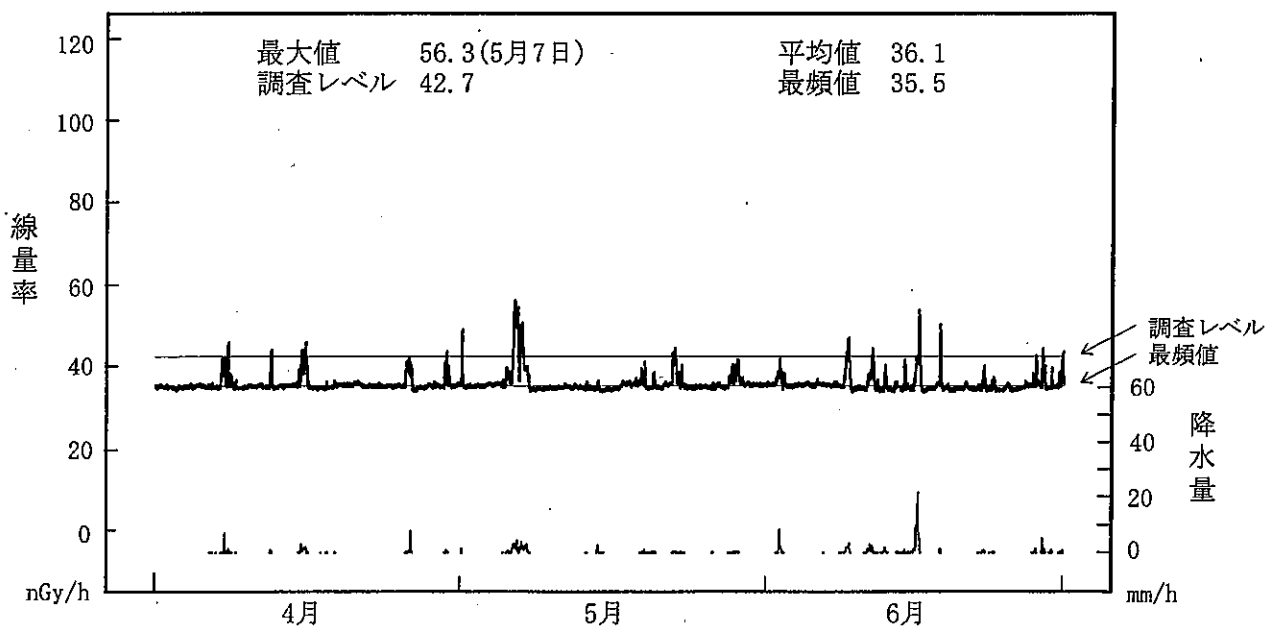


図-2-4 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果 (寄磯局)

(注) 6月14日及び15日の欠測は定期点検によるものである。

令和5年度

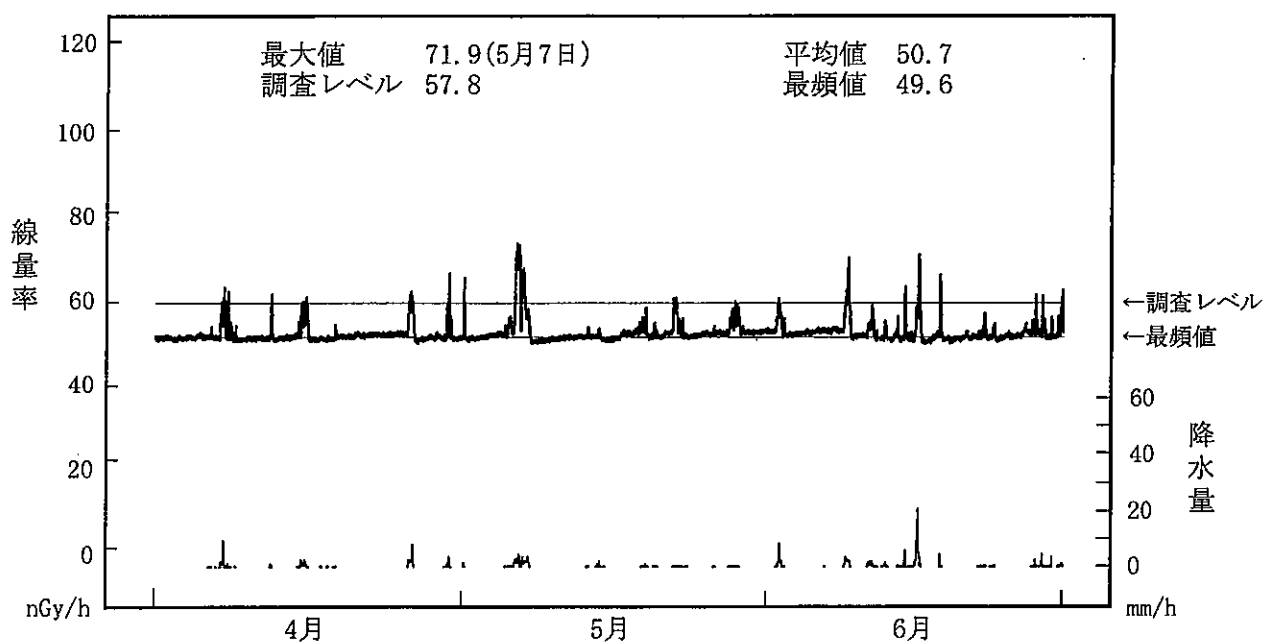


図-2-5 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(鮫浦局)

(注) 6月12日及び13日の欠測は定期点検によるものである。

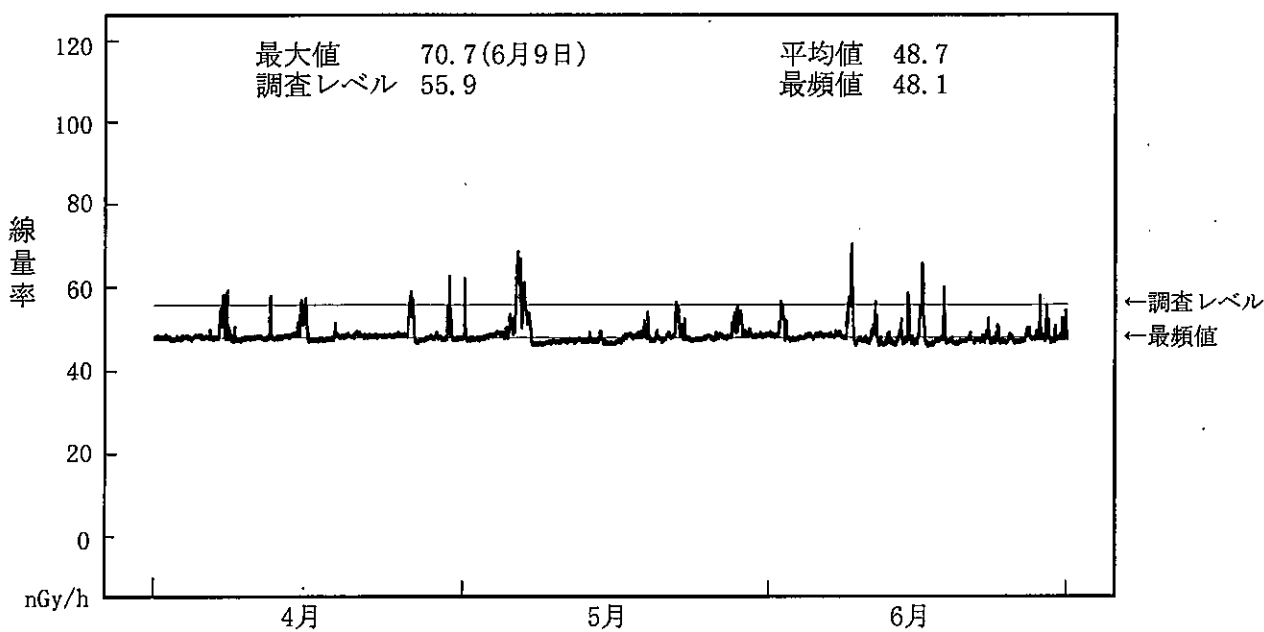


図-2-6 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(谷川局)

(注) 6月20日及び21日の欠測は定期点検によるものである。

令和5年度

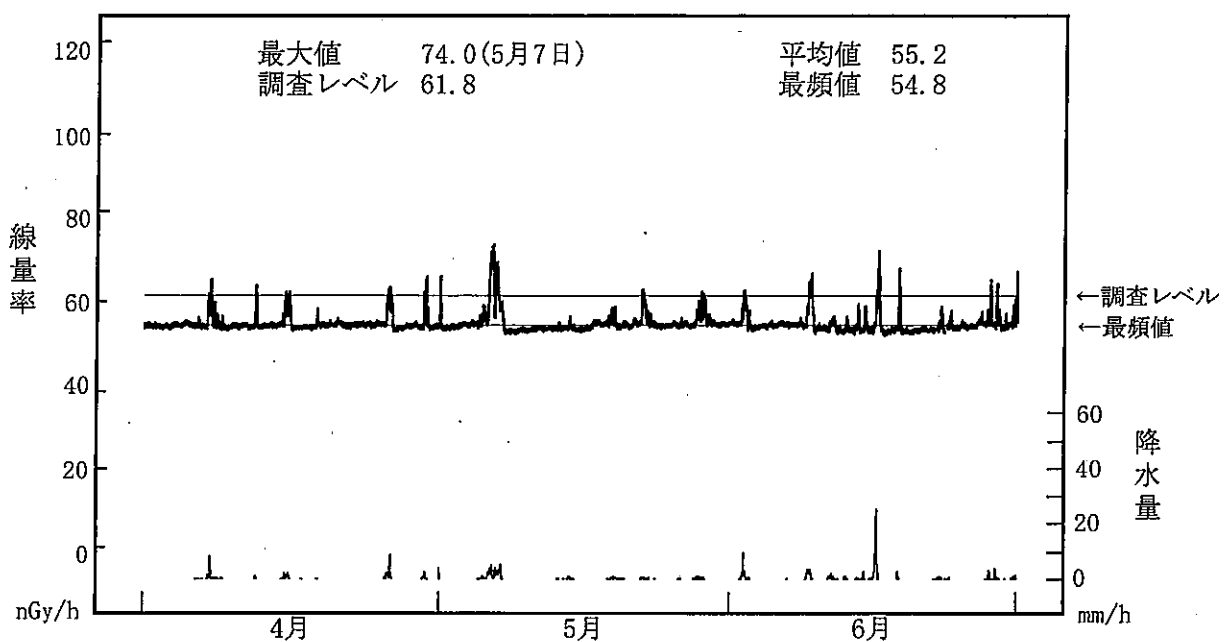


図-2-7 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(荻浜局)

(注) 6月22日及び23日の欠測は定期点検によるものである。

令和5年度

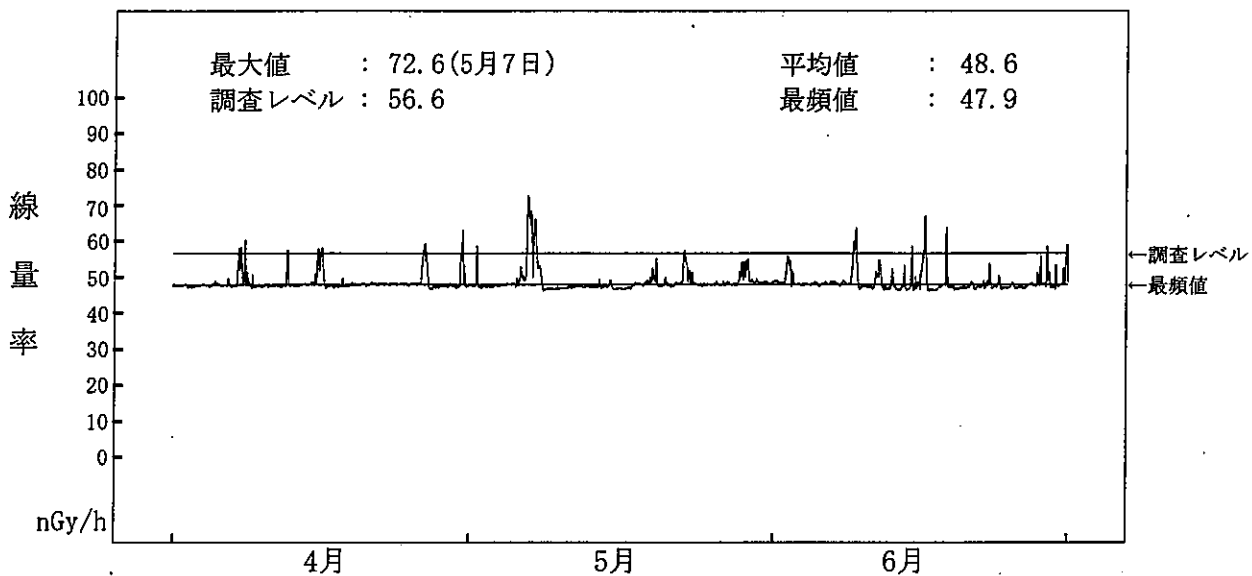


図-2-8 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果 (塚浜局)

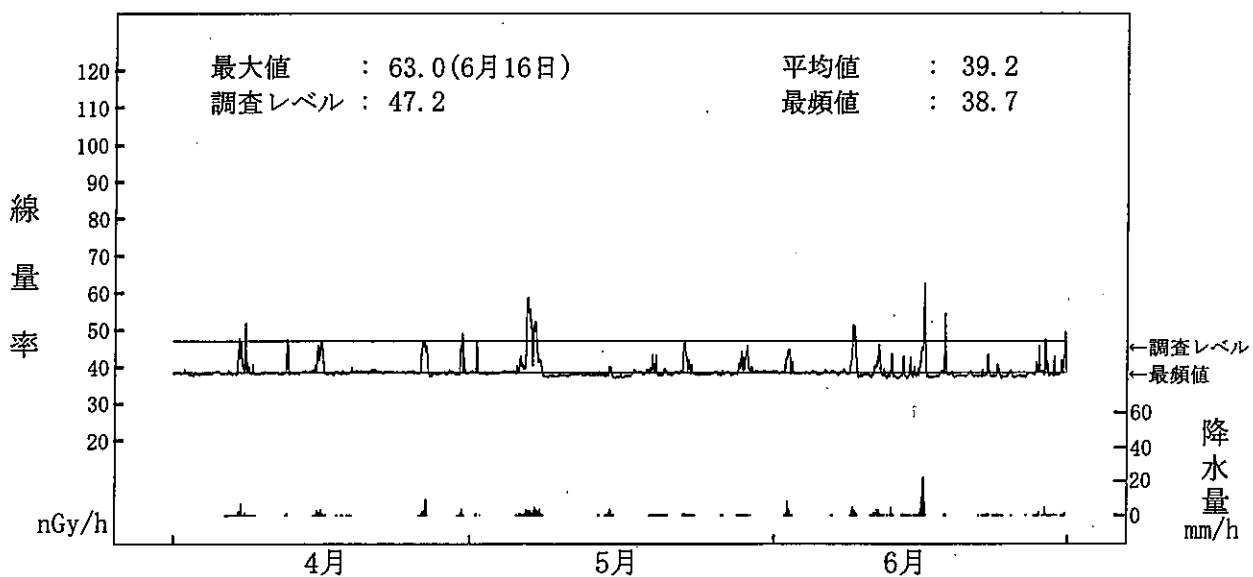


図-2-9 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果 (寺間局)

令和5年度

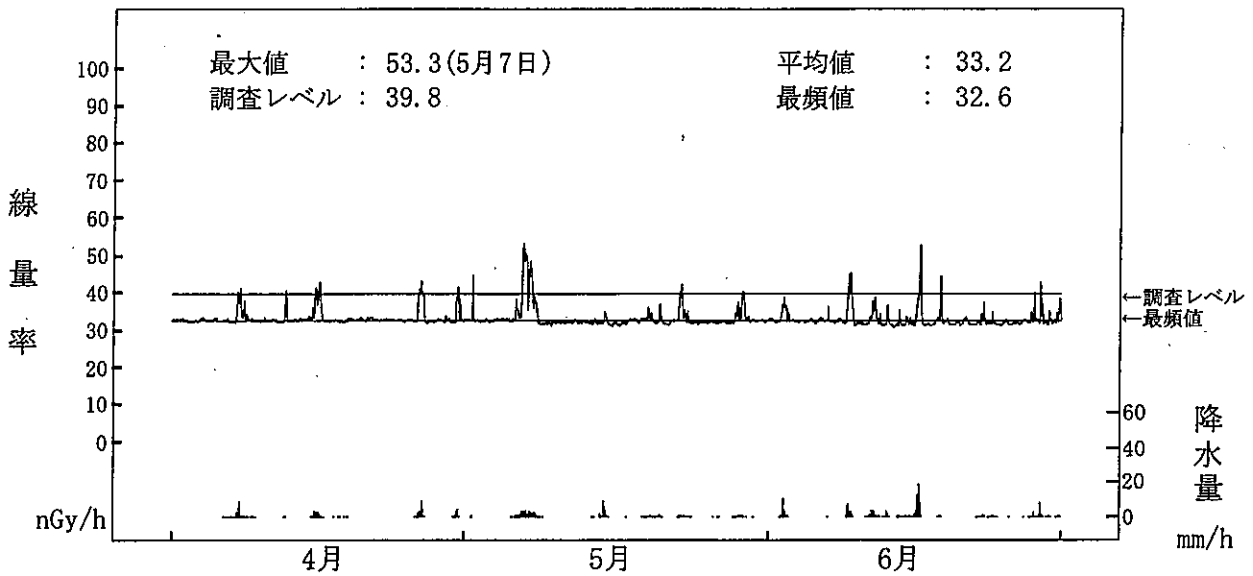


図-2-10 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(江島局)

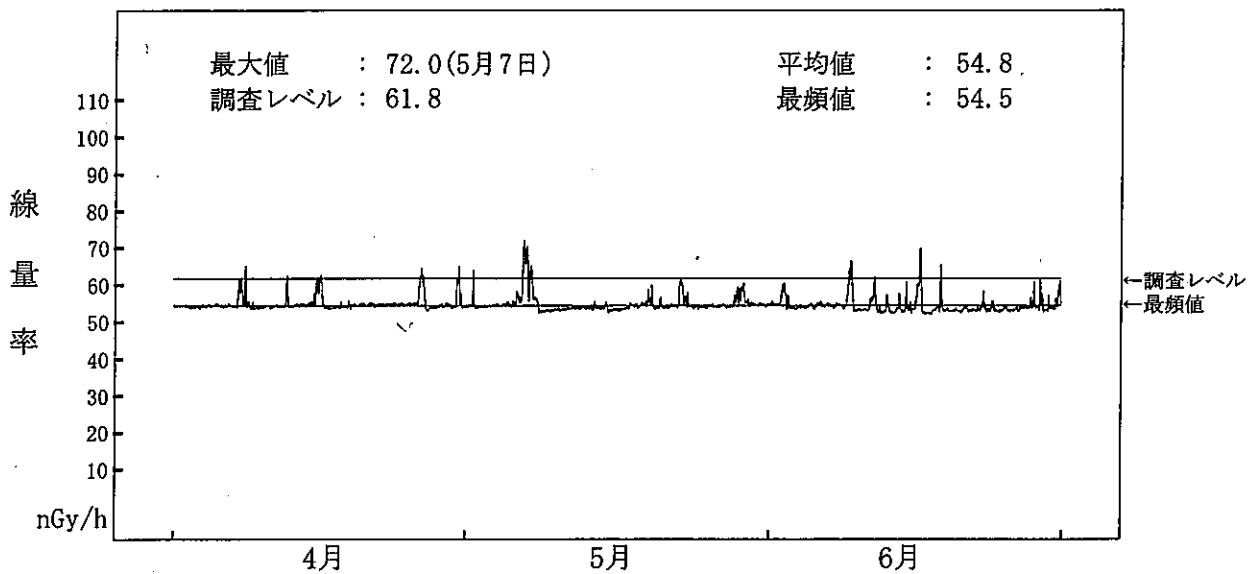


図-2-11 NaI(Tl)検出器による空間ガンマ線量率監視結果(前網局)

令和5年度

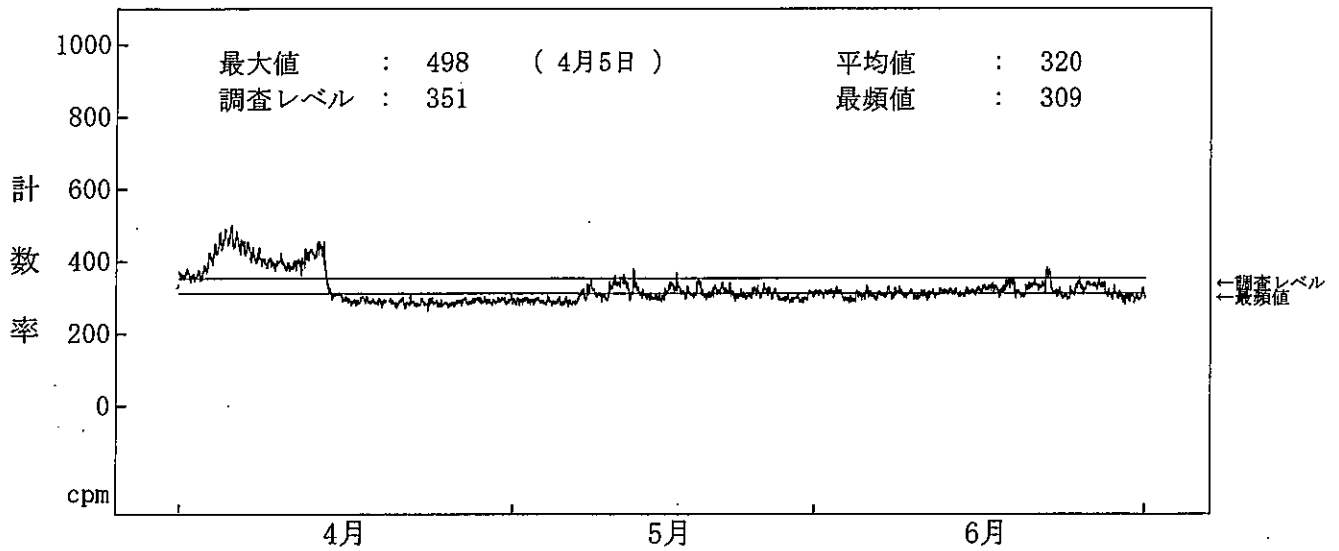


図-2-12 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(A))

(注) 4月1日～14日に計数率が高い値で推移しているのは、令和4年12月19日以降、海水系ポンプを停止したことにより、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種 (Bi-214、Pb-214) を多く含む淡水層の影響によりベースラインが上昇したものと推定された。また、4月14日に1号機流路縮小工事終了に伴い、停止していた海水系ポンプを起動したことにより、計数率が低下したものと推定された。
4月20日の欠測は、設備点検(ケーブル移設作業)によるものである。

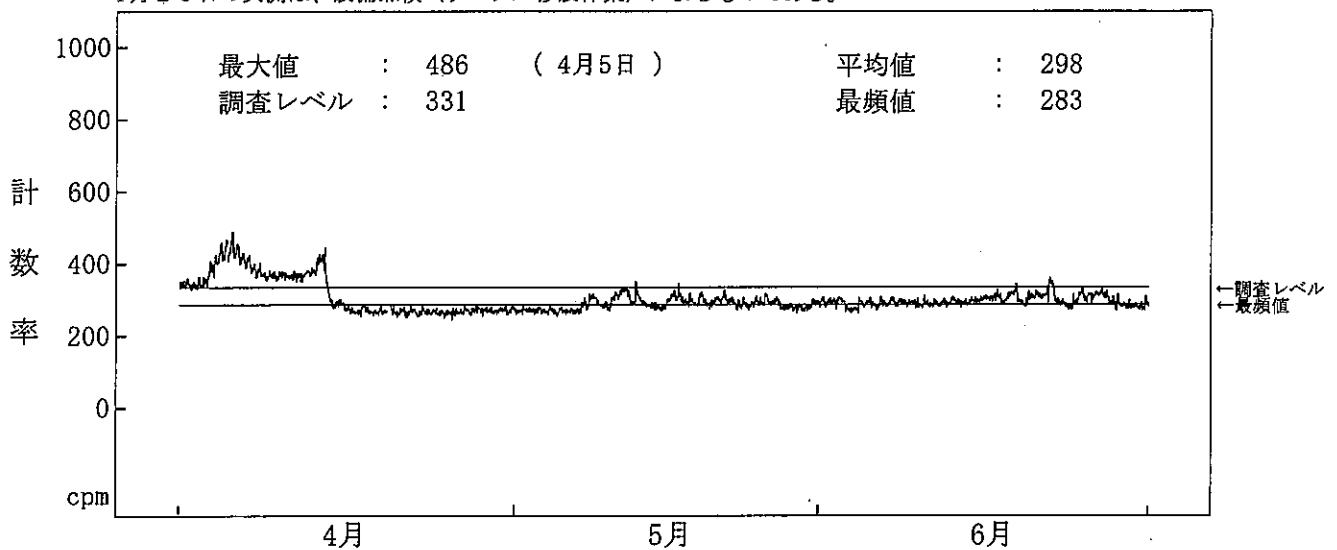


図-2-13 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(1号機放水口モニター(B))

(注) 4月1日～14日に計数率が高い値で推移しているのは、令和4年12月19日以降、海水系ポンプを停止したことにより、放水口モニターを設置している放水立坑内上層部にある天然放射性核種 (Bi-214、Pb-214) を多く含む淡水層の影響によりベースラインが上昇したものと推定された。また、4月14日に1号機流路縮小工事終了に伴い、停止していた海水系ポンプを起動したことにより、計数率が低下したものと推定された。

令和5年度

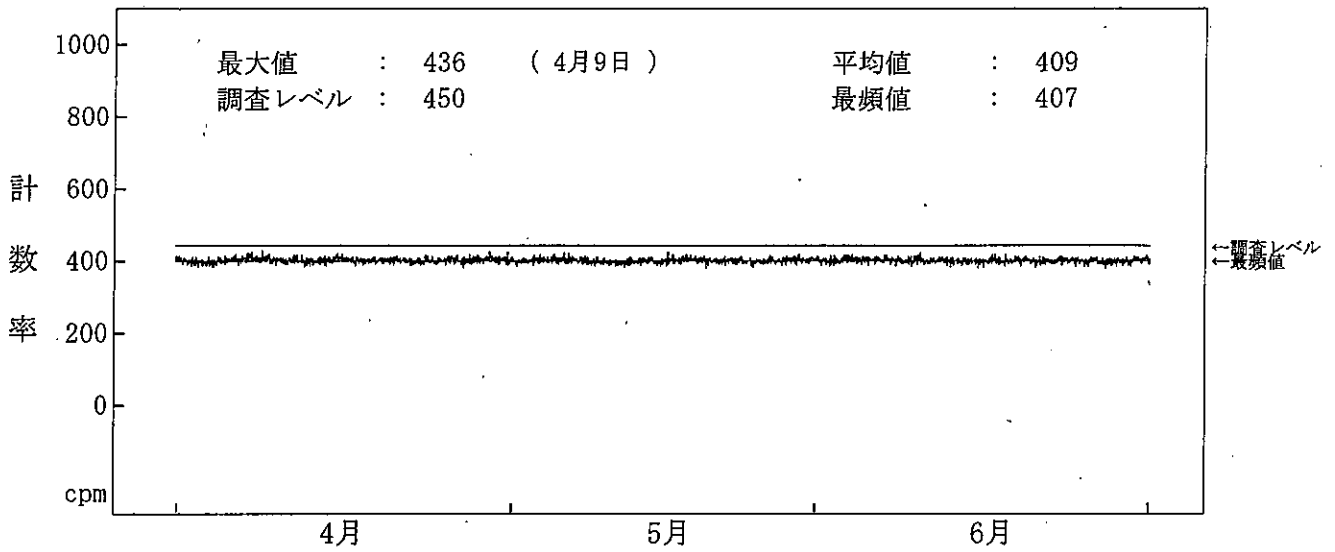


図-2-14 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(2号機放水口モニター)

(注) 4月12日、5月24日及び6月14日の欠測は、定期点検によるものである。
4月27日の欠測は、配管清掃作業によるものである。

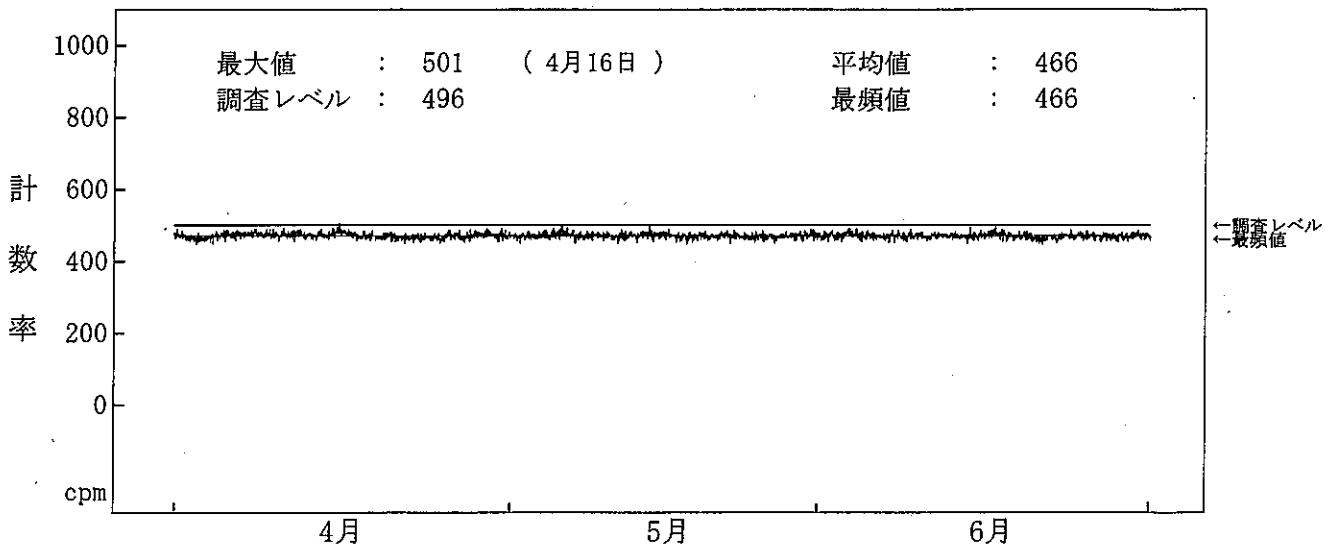


図-2-15 海水(放水)中の全ガンマ線計数率監視結果(3号機放水口モニター)

(注) 4月19日、5月17日及び6月21日の欠測は、定期点検によるものである。

令和5年度

(2) 周辺環境の保全の確認

空間ガンマ線量率等のレベル並びに放射性核種の濃度及び分布について調査した結果、女川原子力発電所の影響は認められなかった。

イ 電離箱検出器による空間ガンマ線量率

表-2-1に、モニタリングステーションにおける電離箱検出器による空間ガンマ線量率の測定結果を示す。福島第一原発事故前から測定している局においては、寄磯局を除き同事故前の測定値の範囲内であった。寄磯局においては、最小値が同事故前の範囲を下回った。

ロ 放射性物質の降下量

表-2-2及び表-2-3に、降下物中の対象核種のうち、Mn(マンガン)-54、Co(コバルト)-58、Fe(鉄)-59、Co-60、Cs-134、Cs-137について分析した結果を示す(対照地点を除く)。なお、本期間における欠測はなかった。

分析の結果、Cs-137が検出されたが、これまでの推移や他の対象核種が検出されていないこと、女川原子力発電所の運転状況等から、福島第一原発事故の影響によるものと考えられる。

図-2-16に昭和61年度以降のCs-137に係る月間降下量(検出下限値以上。以下同じ。)、図-2-17に同事故後のCs-137に係る四半期間降下量、図-2-18に同事故後のCs-137に係る月間降下量及び図-2-19に同事故後のCs-134に係る月間降下量について、それぞれの推移を示す。

ハ 環境試料の放射性核種濃度

人工放射性核種の分布状況や推移等を把握するため、降下物以外の種々の環境試料についても核種分析を実施した。なお、本期間における欠測はなかった。

表-2-4に迅速法による海水及びエゾノネジモクのI(ヨウ素)-131の分析結果を示す。I-131は検出されなかった。

表-2-5に環境試料の核種分析結果の概要を示す(対照地点を除く)。また、図-2-20から図-2-30には、福島第一原発事故後の各種環境試料中における人工放射性核種濃度(検出下限値以上)の推移を示す。

対象核種については、陸土、松葉、アイナメ及び海底土の試料からCs-137が検出された。これらのうち、松葉及びアイナメについては、同事故前における測定値の範囲内であった。陸土及び海底土については、同事故前における測定値の範囲を超過していたが、これまでの推移から同事故の影響によるものと考えられる。

また、松葉の試料からはSr-90が検出されたが、同事故前における測定値の範囲を下回っており、これまでの推移から同事故と過去の核実験の影響によるものと考えられる。

H-3については、陸水の試料から検出されたが、同事故前における測定値の範囲内であった。

これら以外の対象核種については、いずれの試料からも検出されなかった。

表-2-1 空間ガンマ線量率測定結果（電離箱検出器による線量率）

種別	調査機	局名	項目	4月	5月	6月	前年度までの測定値 ^{*1}		単位
							最小値	～最大値	
空間 ガン マ 線 量 率	宮 城 県	女川	平均値	67.5	67.7	67.2	53.7	～ 103.3	nGy/h
			標準偏差	2.2	2.7	2.6			
			最大値	82.5	84.7	82.8			
			最小値	63.7	63.2	62.7			
		飯子浜 ^{*3}	平均値	81.9	82.1	81.9	—		
			標準偏差	2.3	3.0	2.5			
			最大値	96.7	102.5	100.8			
			最小値	77.0	77.0	76.8			
		小屋取	平均値	84.6	84.6	84.3	67.0	～ 124.3	
			標準偏差	2.4	3.0	2.3			
			最大値	100.8	105.0	99.2			
			最小値	80.0	79.7	78.3			
		寄磯	平均値	63.0	63.0	62.6	61.2	～ 105.0	
			標準偏差	1.5	2.4	1.9			
	最大値		72.3	79.2	76.7				
	最小値		59.8	59.5	59.2				
	鮫浦 ^{*3}	平均値	98.7	98.9	98.9	—			
		標準偏差	2.4	3.2	2.8				
		最大値	112.8	119.5	117.2				
		最小値	93.5	92.7	92.5				
	谷川 ^{*3}	平均値	82.1	82.0	81.8	—			
標準偏差		2.1	2.8	2.6					
最大値		96.5	101.3	102.8					
最小値		78.0	77.3	77.7					
荻浜 ^{*3}	平均値	89.3	89.4	89.3	—				
	標準偏差	2.0	2.8	2.5					
	最大値	100.3	107.0	105.2					
	最小値	85.5	84.5	84.5					
東 北 電 力	塚浜	平均値	78.1	78.0	77.8	68.2	～ 126.3		
		標準偏差	2.2	3.1	2.5				
		最大値	92.1	101.1	96.5				
		最小値	74.8	74.1	74.4				
	寺間	平均値	72.9	72.6	72.6	61.4	～ 121.0		
		標準偏差	2.1	2.8	2.6				
		最大値	86.2	92.1	96.2				
		最小値	69.5	69.2	68.7				
	江島	平均値	64.0	63.8	63.6	56.4	～ 103.3		
		標準偏差	2.0	3.0	2.3				
		最大値	75.1	83.3	83.1				
		最小値	61.2	60.8	60.4				
	前網	平均値	83.2	83.0	82.8	69.7	～ 126.3		
		標準偏差	2.0	2.5	2.3				
		最大値	95.8	98.6	97.9				
		最小値	80.0	78.8	79.2				

*1 小屋取は昭和57年度から、女川及び寄磯局は昭和58年度から、塚浜、寺間、江島及び前網局は昭和59年度からの測定値の範囲を示す。

*2 福島第一原発事故前後で区別して過去の測定値の範囲を示す。なお、東日本大震災（以下「震災」という。）の影響により、平成23年3月11日から平成23年4月～9月まで欠測が生じている（復旧時期は局により異なる）。

*3 震災で被災したモニタリングステーションを移転、再建し、平成31年4月から測定を開始した。

(参考) 広域モニタリングステーション*¹における空間ガンマ線量率測定結果
(電離箱検出器による線量率)

種別	調査機関	局名	項目	4月	5月	6月	前年度までの測定値* ² 最小値～最大値	単位
空間 ガン マ 線 量 率	宮 城 県	石巻 稲井	平均値	62.4	62.4	62.6	53.3 ~ 118.4	nGy/h
			標準偏差	2.4	2.8	2.4		
			最大値	78.3	81.7	80.0		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		雄勝	平均値	62.9	62.8	62.7	56.7 ~ 141.7	
			標準偏差	2.5	3.7	3.2		
			最大値	80.0	86.7	90.0		
			最小値	58.3	58.3	58.3		
		河南	平均値	60.0	60.0	59.8	53.3 ~ 143.4	
			標準偏差	2.5	3.4	2.9		
最大値	73.3		83.3	83.3				
最小値	56.7		55.0	55.0				
河北	平均値	63.9	63.9	64.0	53.3 ~ 128.3			
	標準偏差	2.4	3.0	2.4				
	最大値	80.0	81.7	80.0				
	最小値	60.0	58.3	58.3				
北上	平均値	74.1	74.4	74.2	66.7 ~ 141.7			
	標準偏差	2.2	3.0	2.6				
	最大値	86.7	93.3	91.7				
	最小値	70.0	68.3	70.0				
鳴瀬	平均値	59.1	56.5	57.1	53.3 ~ 130.0			
	標準偏差	2.7	3.3	2.8				
	最大値	75.0	78.3	78.3				
	最小値	53.3	51.7	53.3				
南郷	平均値	63.6	60.7	59.9	53.3 ~ 153.3			
	標準偏差	2.5	3.5	2.9				
	最大値	78.3	85.0	80.0				
	最小値	60.0	55.0	55.0				
涌谷	平均値	58.7	57.9	57.9	51.7 ~ 146.7			
	標準偏差	2.4	3.1	2.4				
	最大値	73.3	76.7	73.3				
	最小値	55.0	53.3	55.0				
津山	平均値	63.0	63.0	63.0	55.0 ~ 128.3			
	標準偏差	2.7	3.5	2.7				
	最大値	80.0	83.3	80.0				
	最小値	58.3	56.7	58.3				
志津川	平均値	62.2	62.2	62.3	56.7 ~ 126.7			
	標準偏差	2.4	3.2	3.4				
	最大値	78.3	80.0	93.3				
	最小値	58.3	58.3	58.3				

*1 広域モニタリングステーションとは、原子力規制委員会「原子力災害対策指針（平成24年10月31日制定）」に示された「緊急防護措置を準備する区域（UPZ）」内に県が新たに設置したモニタリングステーションをいう。

*2 平成25年度からの測定値の範囲を示す。

令和5年度

表-2-2 月間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	令和5年度第1四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}		単位
			(上段)平成22年度～平成23年2月 (下段)平成28年度～令和4年度		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn-54	9	N D	749	N D	Bq/m ²
Co-58		N D		N D	
Fe-59		N D		N D	
Co-60		N D		N D	
Cs-134		N D		N D	
Cs-137		0.060～0.35		N D	
			252	N D	
				N D	
				N D～0.57	9329
				N D～0.14	9248
				N D～6.93	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 女川町浦宿浜（女川オフサイトセンター）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値を示し、対照地点（仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。

*3 女川町浦宿浜（女川宿舎及び女川オフサイトセンター）、旧原子力センター（女川）、小屋取及び牡鹿ゲートにおける測定値の範囲を示し、対照地点（保健環境センター、旧原子力センター（仙台）及び仙台市宮城野区幸町（環境放射線監視センター））の測定値を除く。

*4 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*5 平成23年3月～平成27年度における最大値を示す。

表-2-3 四半期間降下物（雨水・ちり）中の放射性核種分析結果^{*1}

核種	令和5年度第1四半期測定値 ^{*2}		前年度までの測定値 ^{*3,4}		単位
			(上段)平成11年度～平成22年12月 (下段)平成28年度～令和4年度		
	試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値	
Mn-54	5	N D	231	N D	Bq/m ²
Co-58		N D		N D	
Fe-59		N D		N D	
Co-60		N D		N D	
Cs-134		N D		N D	
Cs-137		0.34～1.32		N D	
			140	N D	
				N D	
				N D～3.3	8615
				N D～0.20	8438
				N D～21.5	

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 飯子浜、鮫浦、谷川浜、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*3 飯子浜、鮫浦、谷川浜、尾浦、渡波、大原、塚浜及び付替県道における測定値を示す。

*4 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*5 平成23年1月～平成27年度における最大値を示す。

表-2-4 迅速法による海水、アラメ及びエゾノネジモク中のI-131分析結果*1

試料名	採取海域	令和5年度 第1四半期測定値		前年度までの測定値*2			単位
				(上段)平成18年度～平成22年度 (下段)平成28年度～令和4年度		(参考) 福島第一原発事故 後5年間の最大値*3	
		試料数	最小値～最大値	試料数	最小値～最大値		
海水	放水口付近	3	N D	31	N D	N D	mBq/L
				84	N D		
アラメ	放水口付近	/	/	52	N D～0.30	N D	Bq/kg 生
				16	N D		
	前面海域			24	N D～0.13	1.34	
				16	N D～0.10		
周辺海域	20	N D～0.13	0.11				
	13	N D～0.11					
対照海域				62	N D～0.47	0.41	
				48	N D～1.14		
エゾノ ネジモク	放水口付近	1	N D	—	—	—	Bq/kg 生
		8	N D				
	前面海域	1	N D	—	—		
		8	N D				
周辺海域	1	N D	—	—	—		
	8	N D～0.17					
対照海域	3	N D	—	—	—		
	20	N D～0.23					

*1 NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 海水については平成20年度以降の測定値の範囲を、アラメについては平成18年7月以降の測定値の範囲を、エゾノネジモクについては令和元年度以降の測定値の範囲を、福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

*3 平成23年度～平成27年度における最大値を示す。

表-2-5 環境試料の核種分析結果^{*1}

対象物	試料名	核種	令和5年度第1四半期測定値		前年度までの測定値 ^{*2}		単位
					(上段)平成22年度~平成22年度 (下段)平成28年度~令和4年度		
			試料数	最小値 ~ 最大値	最小値	~ 最大値	
農産物	精米	Sr-90			ND ~ 0.0089 ^{*4}	ND	Bq/kg生
		Cs-137			ND ~ 0.035 ^{*4} ND ~ 0.112	0.214	
	大葉根	Cs-137			ND ~ 0.085 ND ~ 0.165	1.11	Bq/kg生
		Cs-137			ND ~ 0.015 ND ~ 0.019	0.588	Bq/kg生
陸水	水道原水 (飲料水)	H-3	1	310	ND ~ 3200 ND ~ 450	610	mBq/L
		Cs-137	1	ND	ND ~ 8.5	282	
陸土	未耕土	Sr-90			1.3 ~ 1.6 ^{*5} 1.0 ~ 1.2	2.6	Bq/kg乾土
		Cs-137	1	27.2	ND ~ 13.1 ^{*5} 23.5 ~ 317	310	
浮遊じん	浮遊じん	Cs-137	14	ND	ND ~ 0.015	23.70	mBq/m ³
指標植物	ヨモギ	Sr-90			0.065 ~ 1.00 0.088 ~ 0.40	0.54	Bq/kg生
		Cs-137			ND ~ 0.17 0.29 ~ 2.64	40.1	
	松葉	Sr-90	1	0.71	0.86 ~ 1.83 0.87 ~ 1.28	2.10	Bq/kg生
		Cs-137	3	0.243 ~ 0.39	ND ~ 0.74 0.219 ~ 2.33	1476	
魚介類	アイナメ	Sr-90			ND ~ 0.011	ND	Bq/kg生
		Cs-137	1	0.16	0.062 ~ 0.21 0.12 ~ 0.21	10.16	
	マガキ	Sr-90			ND ND	0.034	Bq/kg生
		Cs-137			ND ~ 0.058 ND ~ 0.10	1.13	
	マボヤ	Sr-90	1	ND	ND ND	ND	Bq/kg生
		Cs-137	2	ND	ND ~ 0.054 ND ~ 0.53	0.74	
	エソアワビ	Cs-137			ND ~ 0.053 ND ~ 0.082	0.22	Bq/kg生
	キタムラサキウニ	Cs-137			ND ~ 0.063 ^{*6} 0.035 ~ 0.121	1.66	Bq/kg生
海藻	ワカメ	Sr-90	2	ND	ND ~ 0.081 ND ~ 0.062	0.056	Bq/kg生
		Cs-137	4	ND	ND ~ 0.080 ND ~ 0.15	2.39	
海水	表層水	H-3	1	ND	ND ~ 670 ND	ND	mBq/L
		Sr-90			ND ~ 2.9 ND ~ 2.8	3.6	
		Cs-137	4	ND	ND ~ 4.1 ND ~ 4.2	98	
海底土	表層土 (砂)	Sr-90			ND ND	ND	Bq/kg乾土
		Cs-137	4	ND ~ 9.5	ND ~ 2.6 ND ~ 47.2	299	
指標海産物	アラメ	Sr-90			ND ~ 0.073 ND ~ 0.046	0.042	Bq/kg生
		Cs-137			ND ~ 0.16 ND ~ 0.16	12.76	
	エソノネジモク	Sr-90			ND ~ 0.061 ^{*7}	—	Bq/kg生
		Cs-137	3	ND	ND ~ 0.13 ^{*7}	—	
	ムラサキイガイ	Sr-90			ND ND	ND	Bq/kg生
		Cs-137	1	ND	ND ~ 0.096 ND ~ 0.122	0.54	

*1 Cs-137、Sr-90及びH-3の測定値を示し、対照地点で採取された試料並びに迅速法による海水、アラメ及びエソノネジモクの測定値を除く。なお、NDは検出下限値未満であることを示す。

*2 測定値の範囲は福島第一原発事故の前後に分けて示し、同事故後は同事故の影響による高い測定値を除外した平成28年度以降における測定値の範囲を示す。

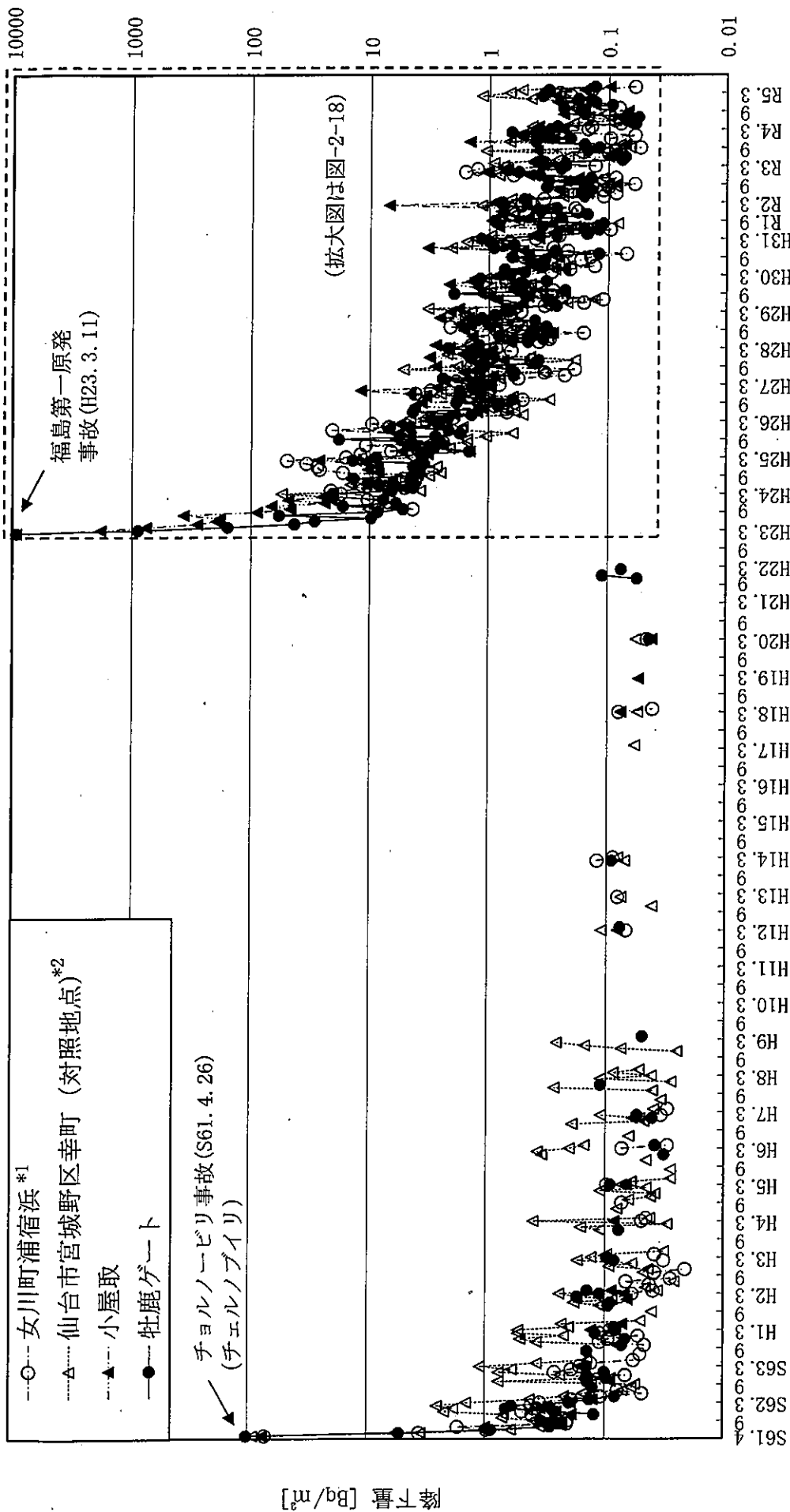
*3 平成23年度~平成27年度における測定値の最大値を示す。

*4 平成11年度の測定基本計画変更によって測定地点が谷川浜のみとされたため、精米の平成22年度~平成22年度については谷川浜における測定値の範囲を示す。

*5 平成21年度の測定実施計画変更によって測定地点が変更されたため、平成21年度~平成22年度における測定値の範囲を示す。

*6 平成11年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、平成11年度~平成22年度における測定値の範囲を示す。

*7 令和元年度の測定基本計画変更によって追加された試料であるため、令和元年度以降における測定値の範囲を示す。



採取年月

図2-1-16 Cs-137の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オアサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。なお、平成9年4月1日に、仙台市宮城野区幸町の保健環境センターにおける採取場所を建物屋上から前庭地上へ変更した。

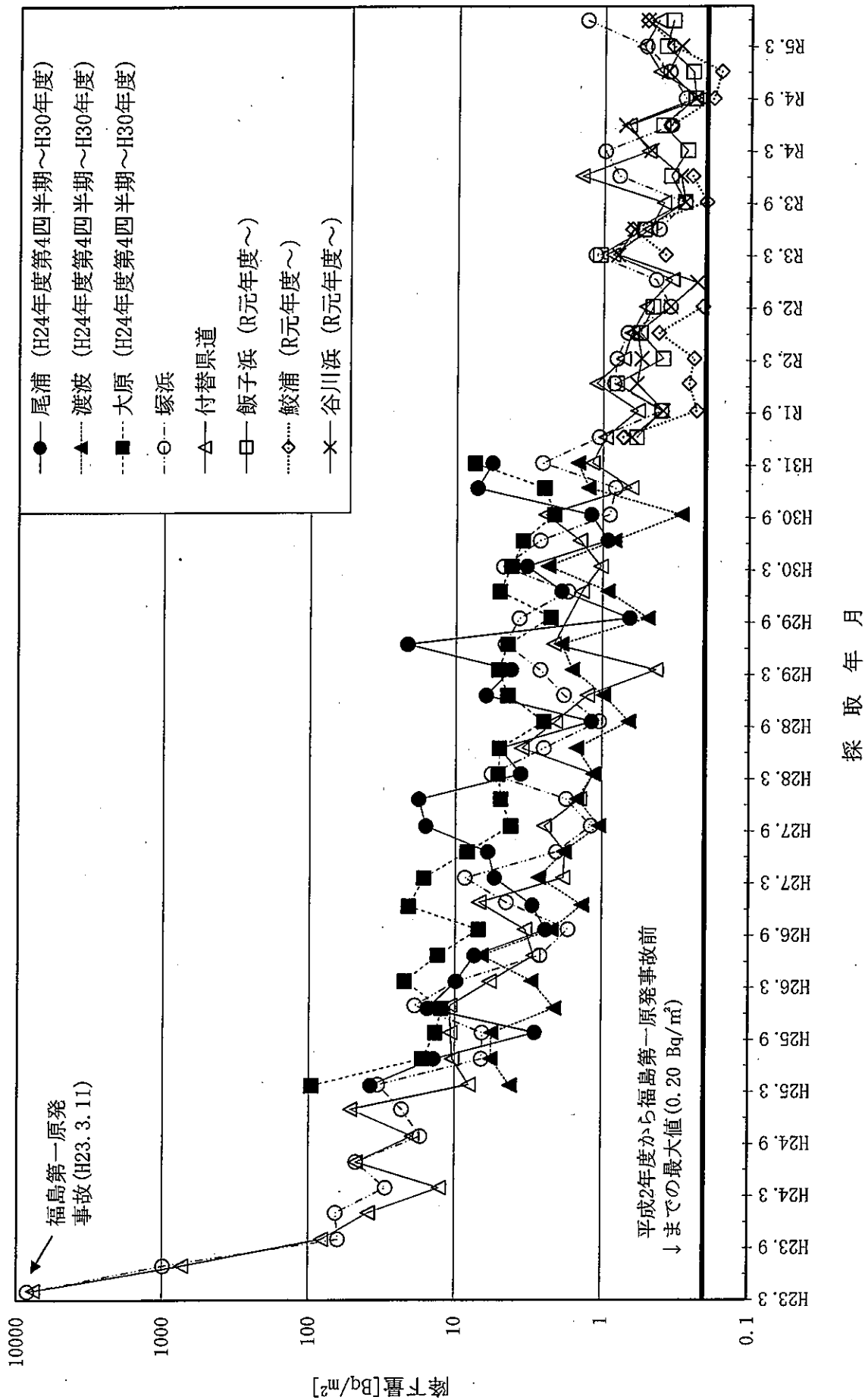


図-2-17 Cs-137の四半期間降下量の推移

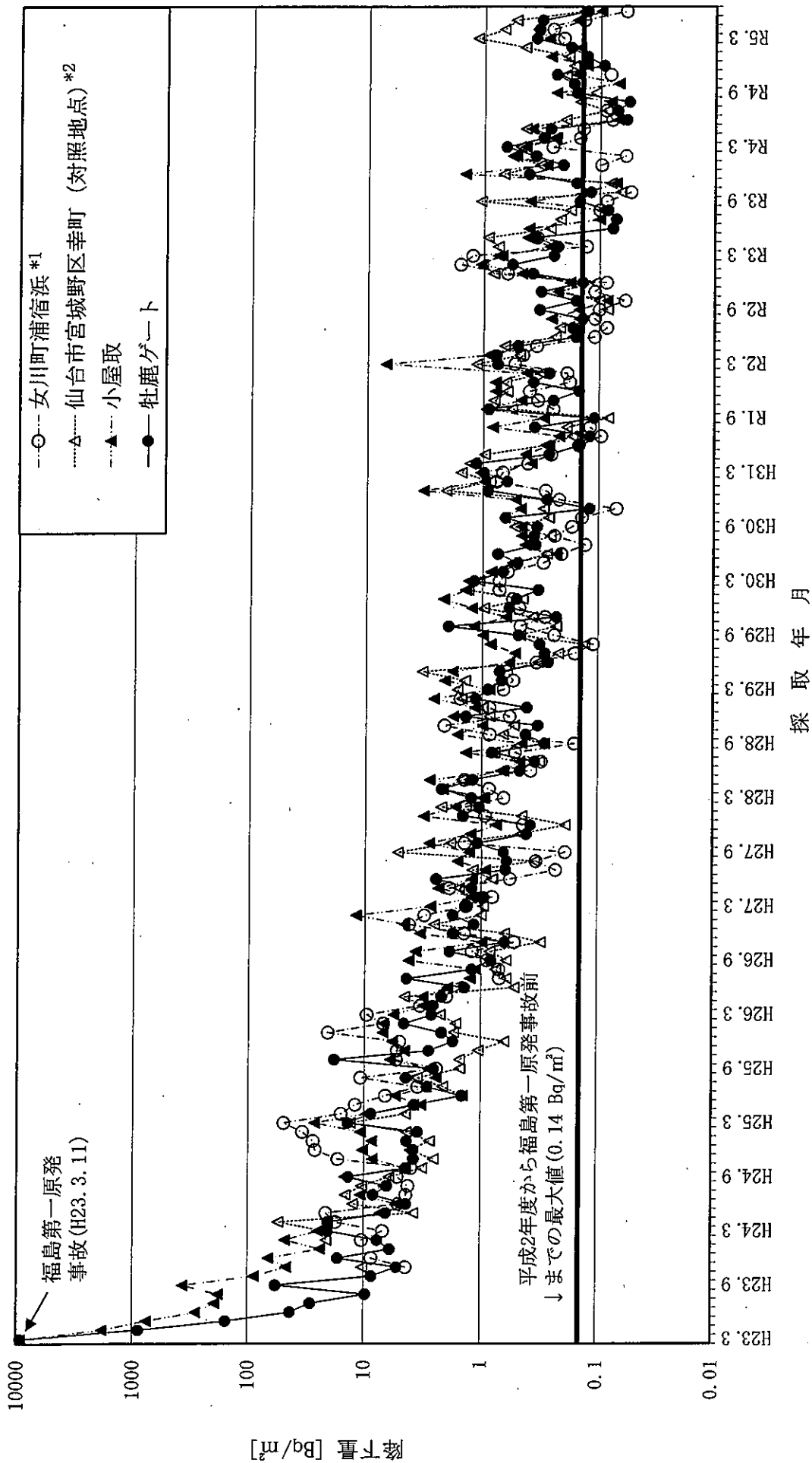


図-2-18 福島第一原発事故後のCs-137の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。

また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。

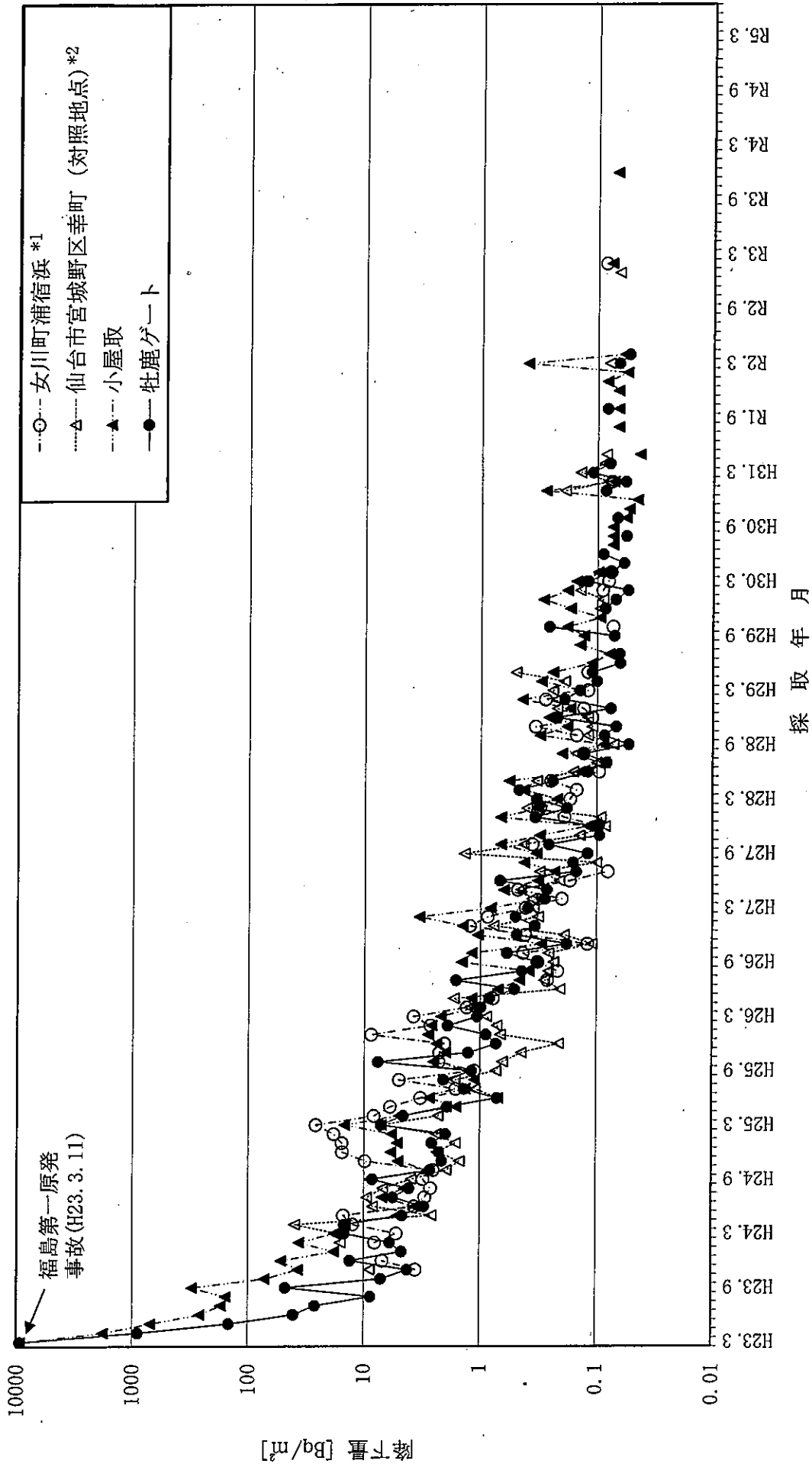


図-2-19 福島第一原発事故後のCs-134の月間降下量の推移

*1 平成23年8月10日以降、採取地点を女川町女川浜の旧原子力センターから同町浦宿浜の女川宿舎に変更している。
また、令和3年4月1日以降、採取場所を女川町浦宿浜地内の女川宿舎から女川オフサイトセンターに変更している。

*2 平成24年8月30日以降、採取地点を仙台市宮城野区幸町の保健環境センターから仙台市宮城野区安養寺の原子力センターに、平成27年3月30日以降、同区幸町の環境放射線監視センターに変更している。

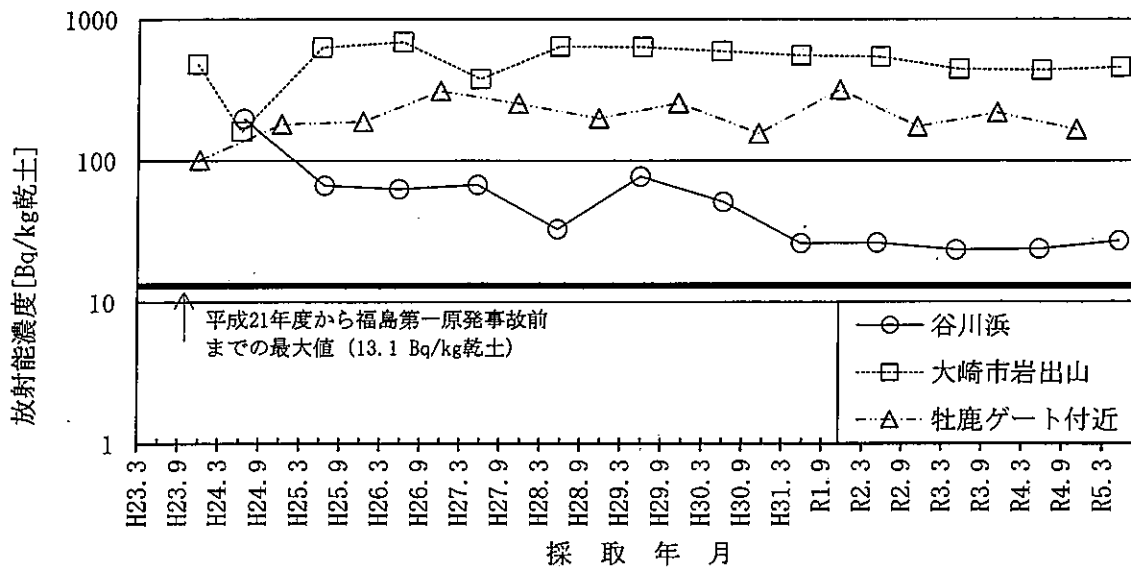


図-2-20 陸土のCs-137濃度の推移

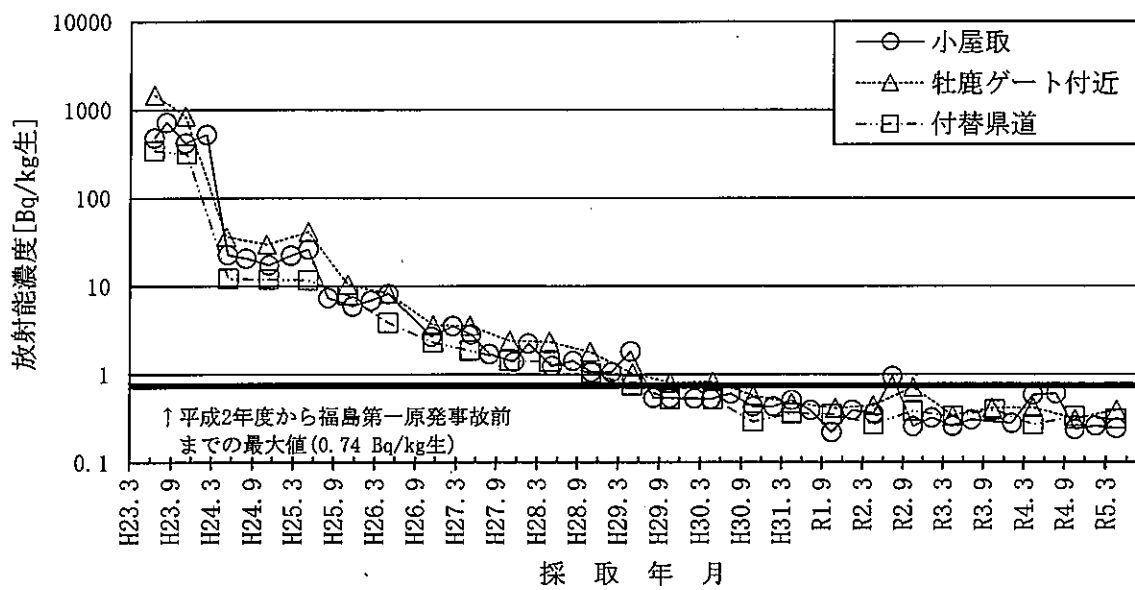


図-2-21 松葉のCs-137濃度の推移

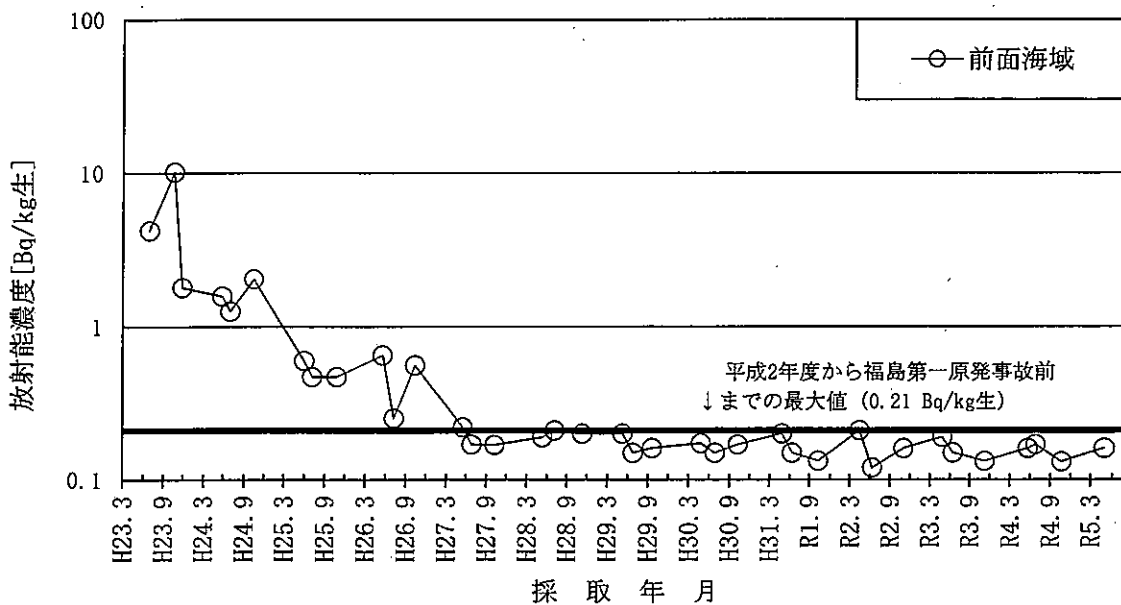


図-2-22 アイナメのCs-137濃度の推移

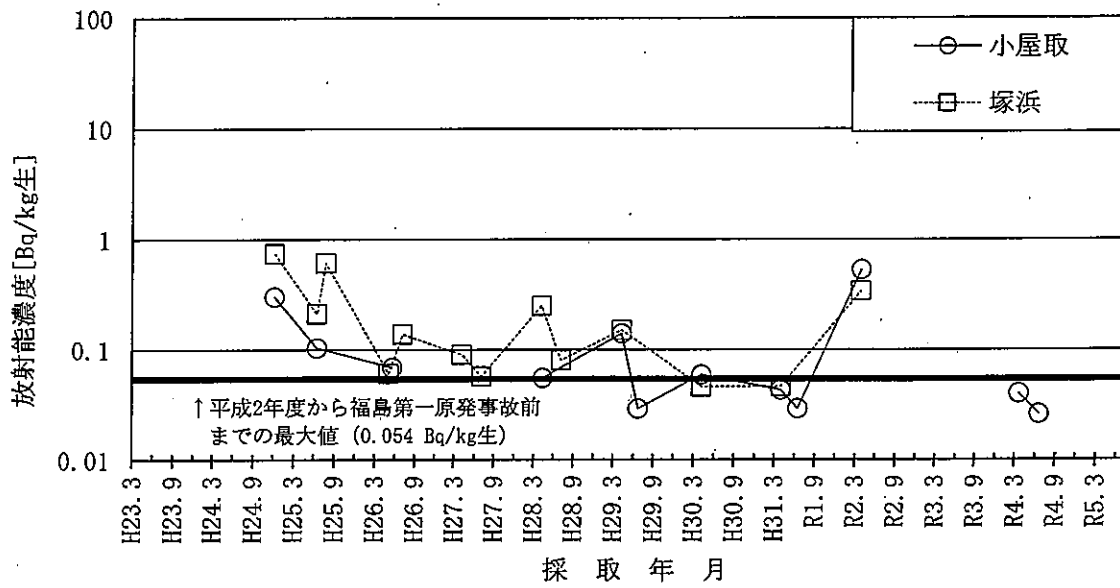


図-2-23 マボヤのCs-137濃度の推移

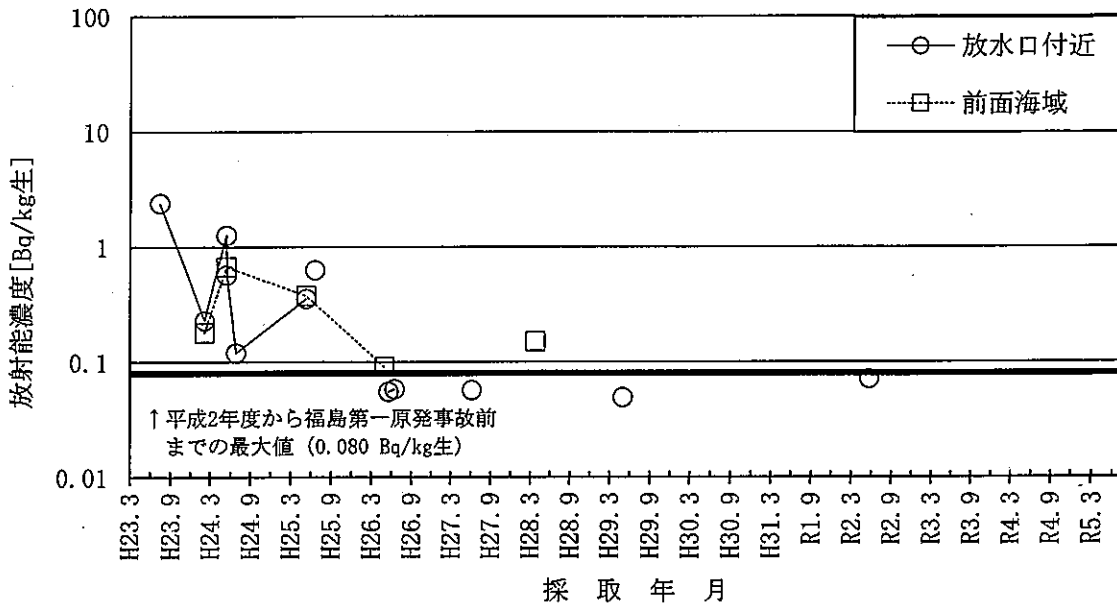


図-2-24 ワカメのCs-137濃度の推移

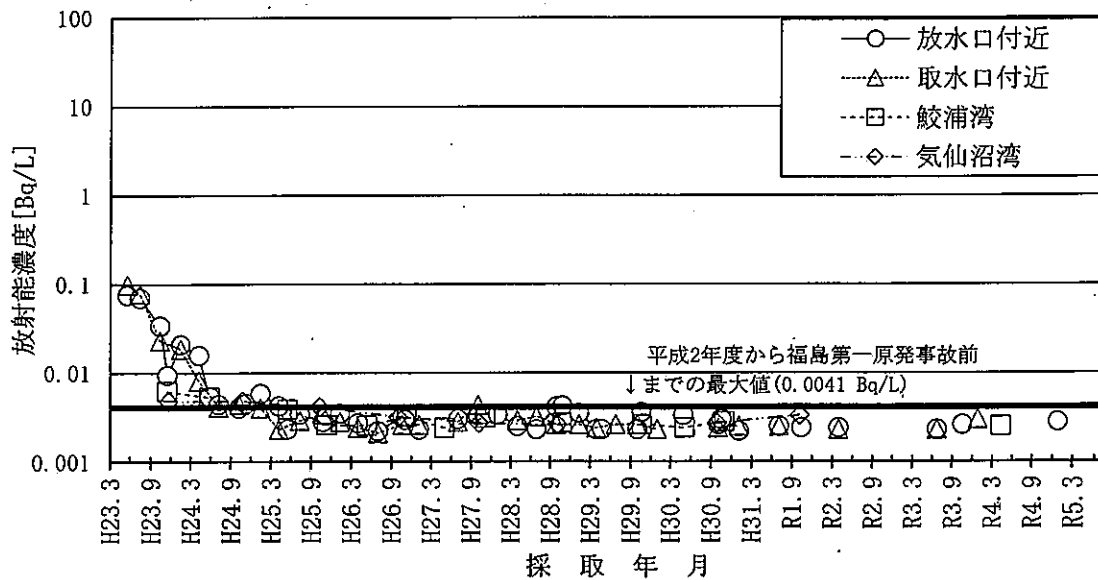


図-2-25 海水のCs-137濃度の推移

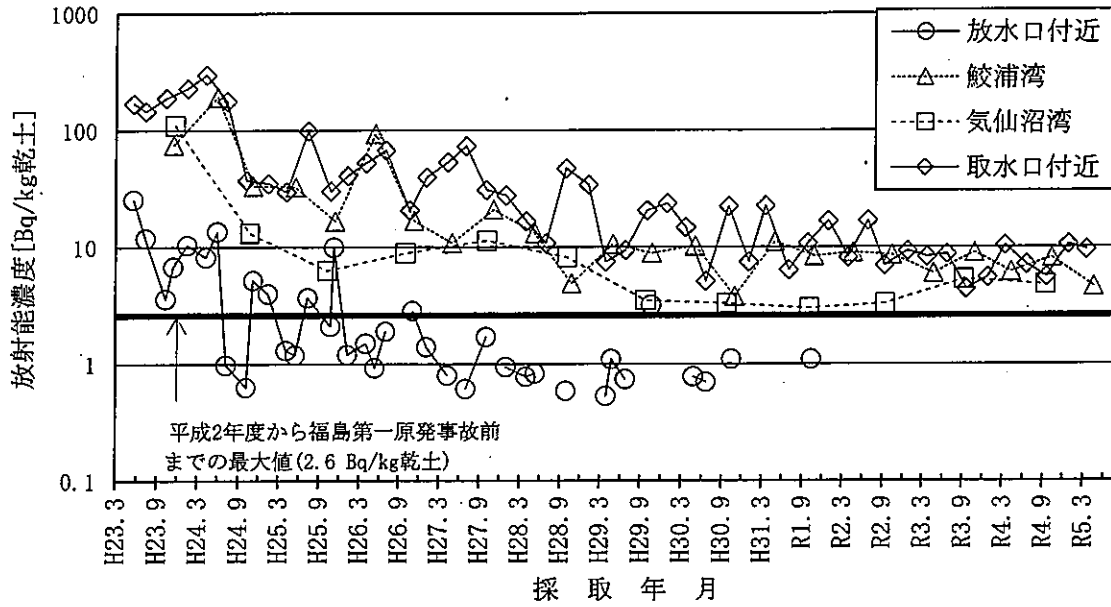


図-2-26 海底土のCs-137濃度の推移

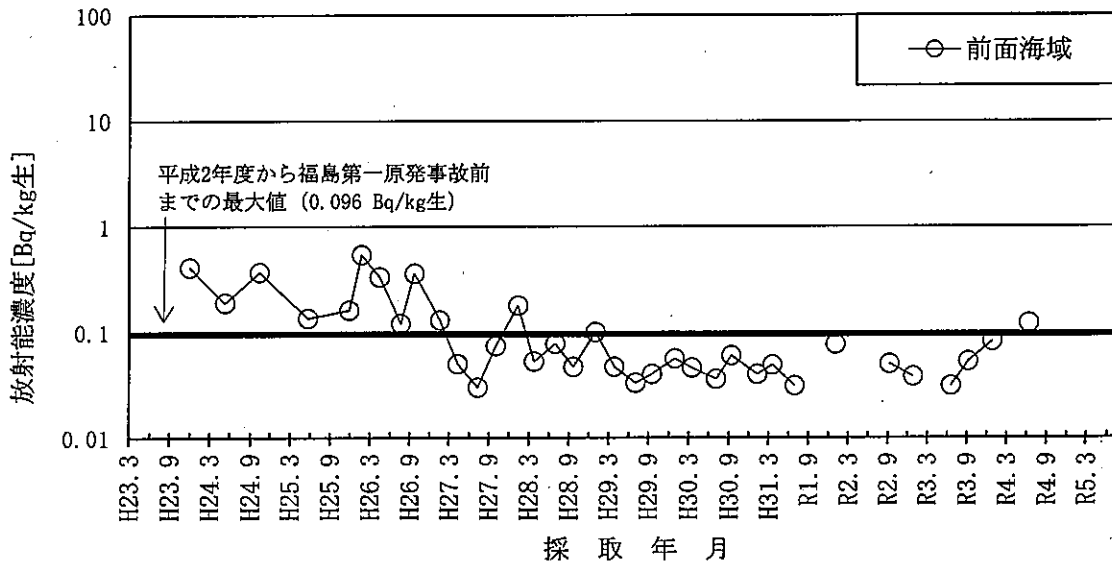


図-2-27 ムラサキガイのCs-137濃度の推移

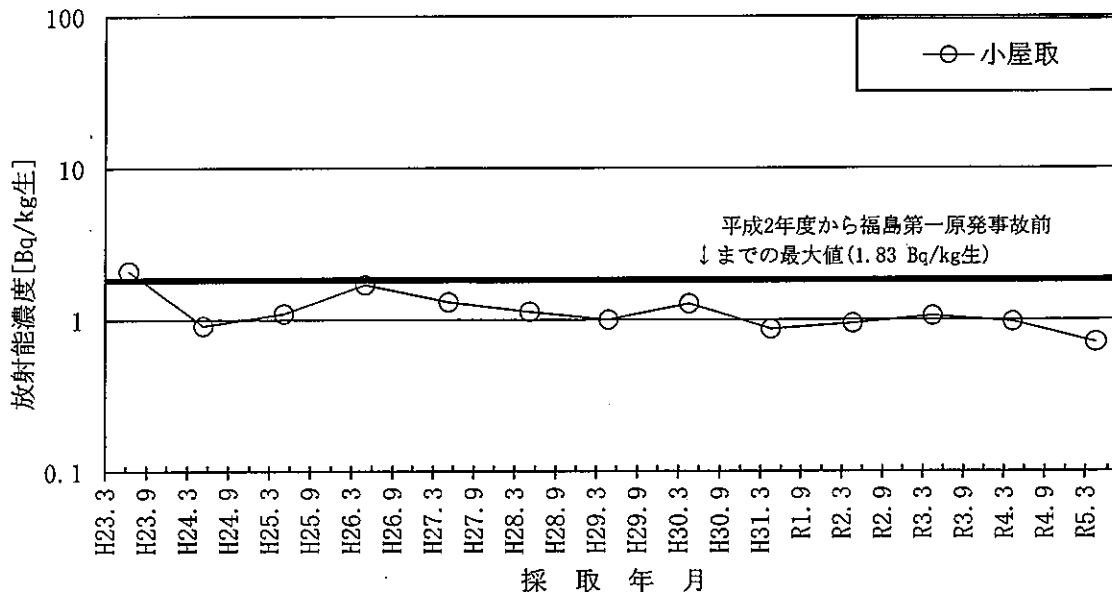


図-2-28 松葉のSr-90濃度の推移

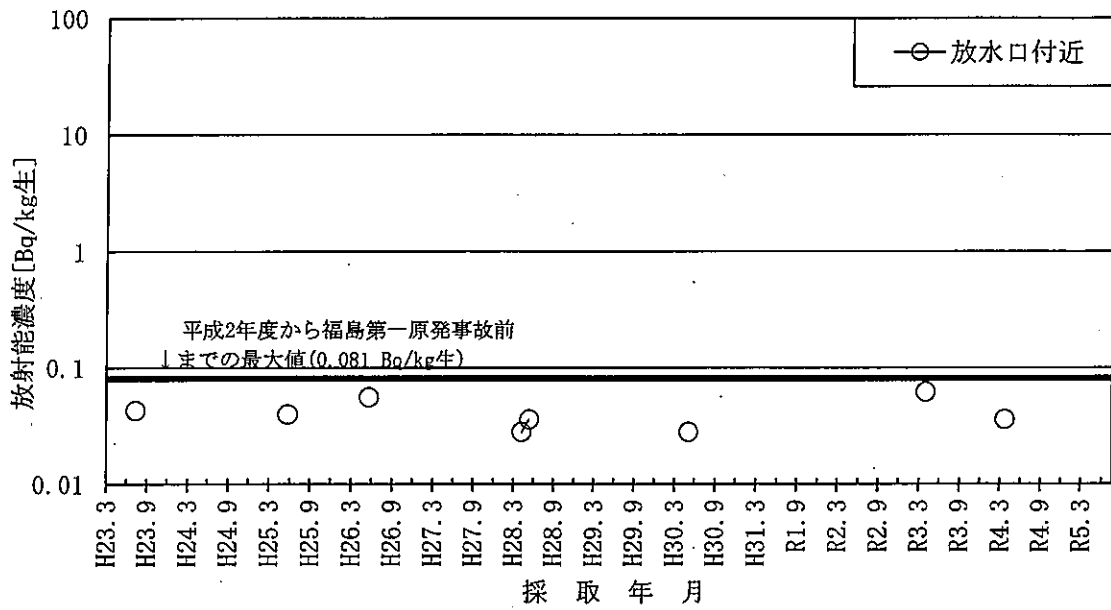


図-2-29 ワカメのSr-90濃度の推移

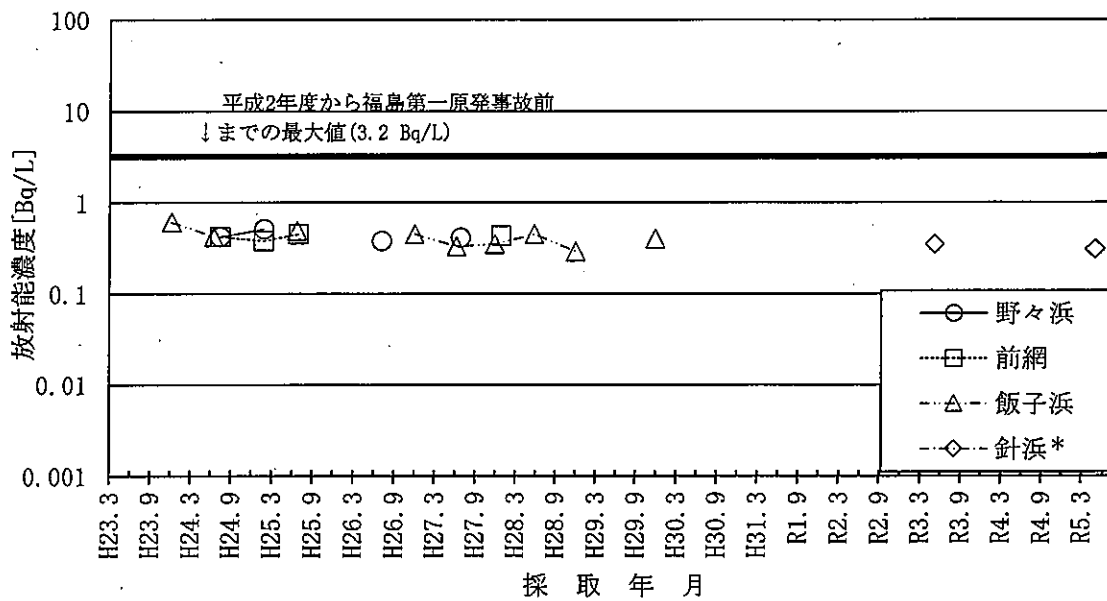


図-2-30 陸水のH-3濃度の推移

* 令和元年度の測定基本計画変更によって採取地点が飯子浜から針浜へ変更された。